



きょうと福祉倶楽部だより

2016年 5号

危機が迫る介護保険

消費税は3%からスタート今や8%そして延期はされたものの10%が用意されています。

そもそも消費税は社会保障に充てるという政府の国民への約束だったのは皆さん記憶なさっていることだと思います。

でも、おかしなことに介護保険制度は発足以来、わたしたちが「安心だ」と喜べるような改善が一度たりともあったのでしょうか？

思い起こしてみます。

要支援、要介護1の方のベッド、車椅子の貸与に制限がかけられ、原則貸与が出来なくなりました。

現場からの大きな反対の声が上がり、医師が必要性を認め、会議を行いサービス提供事業所の合意をとり市町村が確認した場合だけ借りることが可能と押し返しはしましたが、制度の窮屈さから利用されない方が増えました。

ホームヘルパーは医療機関内のサービスが原則出来無くされました。

診察室内は全く認められなくなりました。ヘルパーは、病状の説明もできないのです。

ヘルパーの生活支援は45分以上のサービスでは報酬頭打ちになり、結果、利用者さんの生活支援が困難になっています。

「要支援」の方のサービスは通所、訪問系サービスの大半が一ヶ月単位の定額制となり、サービスを定められている限度額の中で希望するだけ利用することもできなくなりました。そして昨年は「高額所得」のかたの2割負担化、施設利用料の補助の削減も行われました。

あげれば切りが無い介護保険制度の後退です。

このように、ざっと見渡しただけでも様々な利用者を犠牲にする改悪が行われてきました。

それでも年々介護保険料は上がり続けています。

ここまで後退した介護保険制度ですが、まだまだ次が準備されています。大まかにご紹介をします。

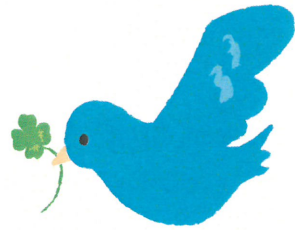
厚労省社会保障審議会が今示している論点では

- 利用料の2割化
- 負担上限額を医療保険並みに引き上げ
- 施設入所者への補助で所有不動産があれば、補助を削減、中止
- 軽度者の方のヘルパーの支援は全額自己負担
- 福祉用具も軽度者の方は全額自己負担

わたしたちはみなさんとともにこの制度改悪を押しとどめたいと考えています。

命は宝です！

介護にかかわる二人の著者



新装版

認知症のある人って、なぜ、よく怒られるのだろう？

作・画 北川なつ

ISBN78-4-408-41404-1
実業之日本社 1,200円＋税



特別養護老人ホームやグループホームでの勤務体験を漫画で描いた本。

京都市在住の漫画家、北川さんは自身が勤務していた施設のお年寄りを漫画にして記憶に残した。

わたしたちも在宅の現場で多くの認知症のお年寄りを見ている。

でも、その時間はとても短い時間です。

反面、施設では24時間「寝食を共に」する。

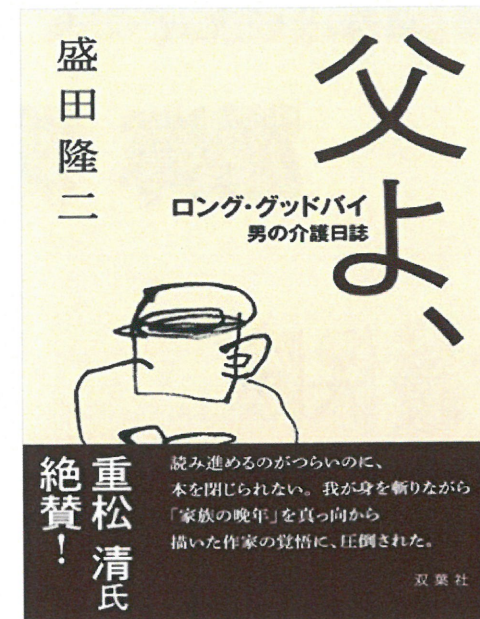
それだけにホームヘルプの現場では見えにくいお年寄りの姿が見えるものもあります。

また、家族の目から見えるお年寄りもこの著者が見てきた視点にはきっと立てないと思います。なぜならお年寄りとの距離が異なるからです。

在宅支援の役割を果たす職業人、在宅で認知症のお年寄りを支える家族が目の前にいる「その人」を深く理解するために参考になる本だ。

父よ、ロング・グッドバイ

男の介護日誌
作 盛田隆二



ISBN 9784575311266
双葉社 1,400円＋税

「ぴあ」を退職後専業作家になった著者の介護体験記。

介護支援専門員として家族と関わってきた私の目から見ると何故このケアマネージャーはこんな選択肢を示したのだろう？こんな方法もあるじゃないの？という同業者の示した支援に疑問が生まれました。

一方、盛田さんが仕事と介護に挟まれながらお父さんの最後の場面を懸命に支える愛情と苦悩が見える本。

盛田さんの苦悩と努力を知るとは介護に職業として携わるわたしたちがやらなければならないことを示唆しているように思える。

